

箭弓さまの素木彫刻と江野楳雪・梅青

第22期 国際・文化学部 課題研究A班



◎堀田 寛 中島 守 ○松崎 宏 大木美行 岩崎恵子 北村慶子 柏木百合子 ○小川育子
山本未子 佐々木慶一 坂元成子 山口ケイ子 小菅ちい子

◎リーダー、○サブリーダー

私たち国際・文化学部課題研究A班は、箭弓稻荷神社に施されている「素木彫刻」と東松山市輩出の「江野楳雪・梅青」に魅せられ課題研究テーマとしました。

1 箭弓さまの素木彫刻

元来、建築彫刻は建築大工の仕事でしたが江戸時代の日光東照宮造替時に「華美かつ精緻な堂宮彫刻」を専業とする「堂宮彫刻師」が現れ「鑿と彫刻刀」で躍動感ある繊細な迫力満点の素木彫刻が施されました。箭弓さまの素木彫刻は、「東照宮造替」に従事した「高松又八郎邦教」門下で「妻沼聖天堂」を手掛けた「石原吟八郎」およびその門下の「飯田仙之助」「飯田岩次郎」などによって完成されました。

2 江野楳雪・梅青の丹青なる画の世界

江野楳雪は文化九年(1812)に比企郡松山町で生を受けました。楳雪は「幻の絵師」と称されており、江戸時代末期まで画壇の中心を担った「狩野派」の流れを汲み、仏画をはじめ山水・花鳥・肖像画・天井画などの作品を手掛けました。楳雪は、兄の息子で娘婿の「梅青」と共に数多くの作品を残しましたが、梅青は、33歳で早世したものの、義父・楳雪にも劣らぬ画力が評価されています。

箭弓稻荷神社(国指定重要文化財)

草創は和銅5年(712)と古く、ご社殿は壮大かつ荘厳で関東唯一の稻荷神社といえます。当時は、野久が原という地に建立されていたので野久神社と称せられ里人の信仰の的となっていました。

第68代後一条天皇の御代、長元元年(1028)下総国主・平忠常が朝廷に謀反を起こし、安房・上総・下総の三ヶ国を武力で服従させ大軍で武藏国に侵略を図りました。

朝廷は、源満仲の三男で河内源氏の祖・甲斐守源頼信(源頼光の弟)に対し平忠常追討の宣旨を下します。

頼信は、武藏国比企郡松山の野久が原に本陣を張り野久稻荷神社にて朝敵追討を誓い太刀一振、俊馬一疋を奉納します。夜通し祈願の明け方、にわかに白雲が起り箭(矢)の形となり平忠常の陣(川越)目掛けて射るがごとくに飛んでいきました。頼信はこれ「神明感應なり」と自軍を鼓舞、敵陣に斬り込むと、忠常陣は殲滅。頼信は稻荷神の御神徳に感謝して自陣に凱旋、御社殿を建立し箭弓稻荷大明神と奉り、御社名を「箭弓稻荷神社」と呼称し今日に至っています。

時代が下り、松山城主上田氏も康正年中(1455-1457)より代々の領主の尊信厚く、文明年中(1469-1478)までの祭礼は太田道灌により執行されました。

川越城主・結城松平家八代・松平大和守斉典は、社地を免除して親筆の献額を奉じました。

松平家代々の城主も崇敬厚く、同社の御分靈を城内や邸内に奉祀しました。

川越喜多院の南光坊天海大僧正は、御神徳/御靈験を得し、箭弓稻荷神社の別当寺を「福聚寺」としました。

箭弓稻荷神社は江戸時代、特に享保年間(1716-1736)に最も隆盛を極め、庶民の崇敬厚く四方遠近より参詣されました。さらに、「箭弓稻荷講」が100講および、同社境内には21軒、現在の本町通りには、11軒の旅籠が林立していました。

当時、一日の歩行可能距離は、男10里、女8里といわれ、江戸から同社までは、約18里。このため川越街道の途中で一泊し、同社近隣の旅籠で逗留するのが一般的でした。

現在でも桶川、鴻巣ほかの道筋に「箭弓いなり道」の道標が見受けられ、当時の隆盛ぶりを偲ぶことができます。



English



(1) 箭弓稻荷神社の『素木彫刻』

箭弓稻荷神社の社殿に施された素木彫刻は、莊厳かつ緻密で立体感溢れる匠の技に圧倒されます。以下、代表的な素木彫刻について説明します。



鳳凰（拝殿軒下唐破風 兎の毛通し（注））



古代から鳳凰はめでたいものには絶えず現われるといわれます。「鳳」はオス、「凰」はメスとされ、鳳凰の背丈は4~5尺ほどで容姿は、頭部と嘴が「鶴」、頸は「蛇」、胴体の前部が「麟」、後部が「鹿」、背は「亀」、顎は「燕」、尾は「魚」の部位からなるとされています。
(注) 懸魚の一種で兎の毛をも通す精緻な彫刻。

In ancient times, they say that a phoenix would constantly come out in auspicious time. "Hou" refers to a male and the "Ou" regards as a female respectively.

三条小鍛冶宗近の作刀（拝殿琵琶板彫刻）



平安時代、刀匠三条小鍛冶宗近は、第66代一条天皇より自身の護り刀を鍛えてもらいたい旨の宣旨を受けます。天皇からの宣旨ですが、宗近の技量に相応した相槌が居りません。宗近は稻荷大神に祈願すると、大神のお使いの神靈が宗近の前に現れ「仕事場に戻り準備をしなさい」といわれます。

宗近は仕事場に戻り作業準備をしていると、神靈小狐が白装束に身を包んだ「相槌姿」となって現れます。宗近は相槌に変身した小狐と無事、一条天皇の護り刀を鍛え、号を「小狐丸」とし天皇に献上されました。宗近は、京都祇園祭の山車に飾られた長刀鉾を鍛えたことでも有名です。

目貫の龍（拝殿水引虹梁上彫刻）



目貫の龍の「目貫」とは刀装具で、刀身が柄から抜けないように柄と茎の穴を差し留める目釘を覆う装飾金具のことです。

このことから「最も拝殿で目立つ箇所」に飾られた「龍の親子」を丸彫りした彫刻です。

龍の中でも特に格式の高い「応龍」は、麒麟・靈龜・鳳凰と共に靈獸といわれ、四靈ともいわれます。龍は、平安時代の仏教文化浸透に伴い「龍に対する畏敬」が定着し、鎌倉時代になると龍は力の象徴として甲冑や武具などの意匠に多用されました。

江戸時代には神仏守護と崇められ大衆に根付き、寺社建築に伴う堂宮彫刻に盛んに多用されるようになります。拝殿の「目貫の龍」は一本の木材をくり抜いて製作された透し彫り彫刻です。

Dragon regards as one of the Four Sacred Beast along with "Kirin" "Tortoise" and "Phoenix". During Kamakura period, Dragon was frequently used as design for on armor and weapon being symbolized power. In Edo period, these sacred beasts were revered as protectors of deities and Buddhas and have become deeply rooted in the lives of people. The "Dragon of Menuki" in a worship hall is said "Openwork" crafted with using a single piece of wood.

昇り龍と降り龍（拝殿 向拝柱）

寺社彫刻でよく見かける「昇り龍」と「降り龍」。頭を上げて「天に駆け昇ろうとしている龍」と「地上を見下ろすように天空で佇む龍」が一対で彫られています。

どちらが「昇り龍」でしょうか？

「頭を垂れている方が昇り龍」で「頭を上げている方が降り龍」です。理由は「実るほど頭を垂れる稻穂かな」という俳句に起因しているとの説です。

他方、仏教界では「上求菩提」（注）が昇り龍に相当し「下化衆生」（注）が降り龍との説もあるようです。

（注）上求菩提=悟りを求める修行に励む。

（注）下化衆生=衆生に悟りを説く。



貘（拝殿 向拝縣鼻）



貘は、悪夢や刀および槍先などの金属を食します。

このことから、貘は争いのない平安な世を希求する瑞獸です。哺乳類のバクは、瑞獸「貘」と姿が類似していることから、この名前が付いたとのことです。貘は象と見間違えがちですが、貘の特徴は巻き毛で、象と比べて小さな耳です。

Tapir, secret beast will eat nightmares and weapons such as sword and spear, so Tapir is regarded as a messenger of peace. Tapir's feature is its curly hair and its ear is small compared to elephant.

おだるき 尾垂木彫刻の龍（本殿軒下四隅）



本殿 軒下四隅の尾垂木の最上段が蜃、中央部が龍、下段に狛が彫刻されています。蜃は氣を吐いて樓閣を成すと謂れます。

Shen (calm monster) is said to create illusions. It has been passed down in ancient Chinese and Japanese folklore. They say that Shen takes a breath and keeps breath long to create Mirage as a result.

龍の彫刻および天井画（社殿）

龍の素木彫刻は、社殿に 43 体、拝殿向拝柱に 9 体、拝殿格天井に 49 体および、拝殿天井画に 1 体施されており、合計で 102 体に及びます。

龍は元来、水の中に棲む「水怪」といわれますが、天に昇り天高く飛翔する靈獸で、雲を呼び、雨をもたらす「雨乞いの靈獸・龍神」とされています。

龍は「蛇」が基になっており 1,000 年で龍となり、その後 500 年経つと「角」が生え、1,000 年で「翼」が生えるとされています。その間に「龍」はさまざまな姿に変化します：

こう 蟒龍:鱗がある / おう 応龍:翼がある / と 蛭龍:角がある / あま 雨龍:角がない /
ばん 蟠龍:天に昇らない / せい 蜻龍:水を好む / か 火龍:火を好む / せき 噴龍:鳴くことが得意。

龍や瑞鳥の一対は、「右側が阿行(開口)」「左側に吽行(閉口)」が彫刻されています。龍以外の靈獸/瑞鳥の素木彫刻は、「獅子」が 24 体、「鶴および鳳凰」が 24 体、「狛」が 21 体(注)、社殿に彫刻されています。(注)狛に見える疑似彫刻「波と亀」を含む。

Originally, dragons were considered “water monsters” living in water. However, they are also revered spiritual beasts that go up to the sky. Dragons are seen as “rain-calling” divine beast that call clouds to bring rain. Dragons originate from snakes. After 1,000 years, scales grow to transform into a dragon. Furthermore, after another 500 years, it grows horns, and after 1,000 more years, it develops wings.

蜀江錦繋紋様彫刻（本殿地紋彫り）



社殿装飾を華やかで優雅に仕上げるため「頭貫」に紋様が施されています。

蜀江錦は、四川省蜀地方で造られた錦織物の一種で、この紋様が日本で最初に採用されたのは法隆寺、そのあと京都西陣織に伝承されました。

In order to make the decoration of the main hall look gorgeous, this type of brocade pattern is carved on headpiece of the building. Shokko-Nishiki is one of kind of fabric type originated in Shu of old Chine.

The oldest Nishiki textile has been stored at Horyuji Temple in Nara.

After that, only fabric pattern has been passed down and the pattern has been used in Nishijin silk fabrics in the modern period.

獅子の谷落とし (本殿背面脇障子)



獅子は子供を産んで3日経過すると、その子を千仞の谷に蹴落とし這い上がって生き残った子どもだけを育てるという伝承があります。

「我が子に試練を与える、その才能を試すこと」
そして「厳しく育てること」を意味します。

There is a legend that when a lion gives birth, three days later, it kicks its cubs down a deep valley saying "Senjin no Tani". Only the cubs that climb back up are raised by parent lion.

Through this story, we derive the idea of testing one's child by giving them trials to challenge their abilities, as well as raising them with strict discipline.

入子菱繋ぎ紋様 (社殿)



菱形の中に菱形を入れた紋様を「入子菱」
これが繋がっている紋様を「菱繋ぎ」といいます。入子菱繋ぎ紋様は、社殿全体に彫刻されています。

Ireko Bishi-Tsunagi Monou could say "interlocking diamond motif".

This pattern features multiple diamond shapes nested within each other, creating an intricate and harmonious design. You can see Ireko Bishi-Tsunagi Monou on bars and crosspieces in the worship hall and the main hall.

だりゅう 龐龍 (本殿縁の下持ち送り腰組彫刻)



江戸時代に刊行された「和漢三才図会」によると、この彫刻は
龐龍と思われます。龐龍は、龍の一種で「気を吐くと雲を呼び、
雨を降らす」架空の靈獸です。龐龍の彫刻は、江戸時代では珍し
いといわれています。

Daryu could say as dragon-like creature and resembles
a crocodile. According to Sino-Japanese Encyclopedia published in Edo period.

Daryu is said to belong dragons and generates rain clouds at time of breathing out
through its mouth. A carving of Daryu theme is very unique.

しゃち 鮸 (本殿縁の下持ち送り腰組彫刻)



鯢は、中国の伝説上の生き物で「虎のような猛々しい魚」と
いうことに起因しています。特に、城郭に使われる鯢は、火災
除けの「呪い」 まじないとして屋根に飾られるようになりました。

Grampus is said as a mythical creature in Japanese tradition and often translated as
Tiger-Fish. That is based on a legendary Chinese creature and its awful, tiger-like nature
as a fish. Shachi is adorned with the roofs of castles as a protective amulet against fire.

すいさい 水犀 (本殿縁の下持ち送り腰組彫刻)



古来より瑞獸として崇められ額髯あごひげを生した 一角獸しゅこうにも見られ
ます。「和漢三才図会」に、「水犀には珠甲があり、山犀にはそれ
がない」とあります。「東西南北」を司る四神の内「青龍」は東を
司り、西を司る「白虎」は獅子となり、南を司る「朱雀」は鳳凰
に、北を司る「玄武」は水犀となると謂れます。

Water Rhino is one of Japanese sacred beasts. Its figure has the body of a deer, a turtle's
shell on its back and a horn on its forehead.

Water Rhino is literally one of fire protection sculptures.

かいば 海馬 (本殿縁の下持ち送り腰組彫刻)



海に住んでいるといわれる想像上の「海馬」も火炎から護る
瑞獸で、背には水犀同様に珠甲があります。

Water house is also one of Japanese sacred beasts. It has a
turtle's shell on its back and live in the sea to protect from fire.

おうせきこう
黄石公と張良（拝殿右脇障子）



English

秦の始皇帝に部落を滅ぼされた張良は、橋のたもとで馬上の老人に出会い、老人は履いている木靴をわざと橋の下に落とし横柄な態度で「木靴を拾い履かせてくれるように」と張良に命じます。張良は相手が老人であることから、木靴を拾って履かせます。

老人は「お前は見どころのある若者だ。教えることがあるから5日後の朝、ここへ来るがよい」と約束して去っていきます。

5日後に張良が来てみると、老人はすでにいて「遅れるとは年長者に対する態度ではない。再度出直して来い」と命じます。

張良は5日後、再び来て見ると老人はすでに来ており叱り付けられます。（表面彫刻）張良は「今度こそ老人に遅れまい」と夜中から指定場所で待っていると、老人がやって来ます。老人は、約束通り「兵法書」を張良に授け「これを読めば王者の師となれる。十年後に興隆し13年後にお前は私に会うであろう。穀城山の麓にある黄色の石が私だ」と言い残して去って行きます。（裏面彫刻）

老人は「黄石公」といい一遍の巻物は「太公望の兵法書」でした。

張良はこの兵法書を精読・咀嚼し前漢の皇帝・劉邦の「軍師」に上り詰めます。

そして3年後、張良は穀城山を通る時、黄色石を見出して丁重に祀ったとのことです。

そかん
楚漢の戦い（拝殿左脇障子）



English

紀元前204年、楚の項羽軍と劉邦軍が一進一退の攻防を繰り広げた時、劉邦の部下である「韓信」は項羽側の

「趙」を討伐しようと画策します。

趙の大軍は、井陘口で迎え討とうとしており「井陘口は道が狭く両側が山。韓信がやってくるなら必ず通る正面から戦うのは避け、後ろに回って狭道で挟み撃ちを。」と、趙軍の軍師は趙王に進言しました。

ところが趙王は「韓信の兵力はわずか数千、しかも彼方からやってきて疲労困憊のはず。正面から勝負しなければ笑いものになる。」と言ってこの策を拒否しました。

一方、韓信は夜半、二千人の軽騎兵に漢軍の赤い幟を持たせ、小道から趙軍の陣営の後ろに回って待ち伏せします。

韓信は「敵は我らが敗走したと見れば追撃してくる。その時、お前たちは無人となった趙軍の陣営に入り込み、趙の幟を抜き取り我が赤い幟を立てろ」と命じます。明け方、韓信は自軍の旗印を立て出撃し、敵陣に詰め寄るも敵前逃亡を装い離散していきます。それを見た趙軍は、攻撃のチャンスと城門を開き、打って出て韓信軍を追撃開始します。**(表面彫刻)**

その時、軽騎兵二千人は空になった楚軍の城壘に登り自軍の赤い幟を立てます。楚軍は城壘に立てられた敵軍の幟を見て驚き、城壘は墜ちたものと思い遁走します。韓信軍が楚軍を打破り、韓信は前漢の皇帝・劉邦の「軍師」となります。**(裏面彫刻)**

たけのうちのすくね 幼君を抱く武内宿禰と神功皇后（本殿背面唐破風中備）



新羅征伐のあと「神功皇后」は嫡男(後の応神天皇)を出産します。その後、再び朝鮮征伐を行いますが、応神天皇が幼君であることから、異母兄のかごさかのみこ、おしきまのみこ、麿坂皇子と忍熊皇子が皇位を狙います。

麿坂皇子は反乱の成否を占う祈狩を行った際、イノシシに襲われ命を落とし、忍熊皇子は不吉な前兆に恐れ住吉に逃走します。

武内宿禰の前で平伏し竜宮の宝珠を差出しているのは、阿曇磯良という海神です。

When returning from the conquest of Korea, Empress Jingū's son, later Emperor Ōjin, was carried on Minister Takenouchi Sukune. This led his half-brothers, Prince Kagosaka and Prince Oshikuma, to plot for the throne.

Prince Kagosaka performed a divination hunt to predict the success of their revolt but all of sudden he was attacked by a wild boar and demised and Prince Oshikuma fled to Sumiyoshi area. Additionally, Azumi no Isora, the sea god, is said to have prostrated before Minister Takenouchi Sukune and presented the treasure of Ryūgū (the dragon palace).

孔雀（本殿軒下彫刻）



孔雀は、禍を払い子孫繁栄を象徴し害虫を防除する鳥類と謂れます。

Peacocks control pests so that they have been believed to ward off misfortune and symbolize prosperity.

火頭(灯)窓の二龍 (本殿北面および南面)



火頭窓は、中国伝来の窓様式で、禅宗建築の窓として採用されていました。

二龍は強力な守護神として仏法を守護するとも謂れており「神仏習合」を踏襲しているとも考えられます。窓の内側には板戸や障子がある一方、本殿の火頭窓には板戸が確認できます。

さらに火頭窓には、渦巻き状の「グリ紋」彫刻が施されており、この装飾紋様には「魔除け」の意味が込められています。なお、グリ紋は、獣の顔に似ていることから「グリ紋自体が魔除け」になるとの考えがあります。

Two dragon sculpture caved on bell-shaped window is provided in the north and south sides of the main hall respectively. Each window's carving composition is very unique, say, two tails of two dragons are intertwined and hold each precious gemstone on their tails. This bell-shaped window is typically seen in temples. However, naturally dragon sculpture on bell-shaped window is very rare and valuable.

獅子と牡丹 (本殿背面脇障子)



獅子は「百獸の王」、牡丹は「百花の王」と称されています。獅子の体毛には死に至らす蟲が発生します。その蟲は「牡丹の夜露」にあたると死んでしまいます。そこで、獅子は牡丹の下で夜を過ごし蟲から身を守ります。

The lion is said as the king of beasts and Peony is compared as the king of flowers. Dangerous bugs are popping up on lion's body hair. The bugs die when

exposed to night dew. The lion spends the night under the peony for protection.

箭弓稻荷神社素木彫刻 (靈獸/瑞鳥/動物/植物)

本殿							幣殿				
腰組	龍	飛龍	水犀	亀	海馬	本体	唐獅子				
	鯉	鼈龍	波	鯢	蛟	軒廻り	燕	音呼	紅葉	波	
本体	龍	唐獅子	雲								
軒廻り	龍	飛龍	蟹	猱	狐	拝殿					
	鳳凰	山鵠	燕	音呼	梅	軒廻り	菊				
	葡萄	蒲公英	波				龍	飛龍	龍馬	唐獅子	猱
軒上	仙人・唐子	飛龍	亀	鶴	菊	向拝	鳳凰	瑠璃鳥	松	梅	菊
	雲	波					蒲公英	竹	雲	波	
脇障子	龍	唐獅子	牡丹	雲		脇障子	仙人・唐子	鳳凰	鶯	梅	雲

仙人の鳥鷺と斧柯 (本殿背面胴羽目彫刻)



仙人同士が囲碁を打っている時、木樵が対局を観戦しています。



English

「仙人の対局時間は、悠久の時を経過していく中で木樵の担いでいた斧柯(注)が腐ってしまった」という逸話です。(注)斧の柄のこと。

このことから、「仙人と比べ人間の寿命は短い。些細な争いなどはせず、大切な時間を有意義に過ごしなさい」という教訓です。

鳥鷺の「鳥」はカラス色(クロ)で「鷺」は鷺色(シロ)で、碁石を表現しています。

司馬温公甕割の図 (元宮彫刻)



中国・北宋時代(平安時代)、司馬温公の幼少期(司馬光)の逸話です。



English

司馬光の父が大切にしていた高価な水甕の周りで遊んでいた友達の一人が、誤って水甕に落ちてしまいました。それを察知した司馬光は、即座に傍らにあった石を掴むや水甕めがけて投げつけました。すると、水甕は割れて水と共に友達が流れ出て一命をとりとめました。

高価な水甕なので、父に子細を話したところ叱責されず、むしろ褒められたとのことです。

「人の命は何者にも代えられない」という教訓です。司馬温公は北宋の政治家で、歴史書「資治通鑑」の著者としても知られています。



蟇股彫刻 (本殿)

蟇股とは、水平材間の補強材で「蛙が後ろ足を開いた状態」に似ているため蟇股と呼ばれています。

Frog-legged carvings are used to reinforce beams.



(備考)掲載写真の撮影場所：箭弓稻荷神社(東松山市)

(2) 江野楳雪・梅青『丹青なる画の世界』



江野楳雪は 1812 年現在の東松山市本町に生まれ、壮年期には川越に居を構え、寺社、旧家に「仏画、山水画、花鳥画、肖像画、祭礼画」などを数多く描いています。それらの絵画は「掛軸、襖絵、板絵、天井画」となって残されており、リズム感のある画風から、「狩野派の流れ」を汲むといわれています。



English

菩提寺である東松山市の曹源寺所蔵の「涅槃図」「十界図」は本格的な仏画です。楳雪が住居した川越の廣濟寺にも「十八羅漢図」をはじめ多くの作品が残されています。

鴻巣の法要寺、入間の蓮華院の「大天井画」は見るものを圧倒します。そして、確認された数多くの作品の数倍におよぶ作品が存在したと考えられています。

十八羅漢図 (8 Arhats: 撮影先 川越廣濟寺)



楳雪が描いた十八羅漢図は、道元禅師が中国から持ち帰った国宝「十六羅漢図」(鎌倉幕府倒幕の折、新田義貞創建の龍ヶ崎金龍寺所蔵のもの)を模写し二体の羅漢を加え十八体としたといわれます。

楳雪なりの創意工夫と力量が加えられた素晴らしい作品です。

それぞれの羅漢さまは一人一人に精靈が宿っていて、見る者を釘づけにします。十八羅漢図は、江戸末期に川越喜多町・廣濟寺の依頼で制作されました。

十六羅漢とは、仏教における阿羅漢の中でも、特に優れた十六人の弟子のことを指します。阿羅漢とは、仏教における修行の最終段階に達した聖者のことです。煩惱を全て断ち切り、悟りを開いた者を指します。



十六羅漢は、もともとは釈迦の十大弟子に、さらに六人の弟子を加えたものです。彼らは釈迦から、仏法を護持し、人々を救済するように命じられたとされています。十六羅漢は、古くから多くの人々に信仰されてきました。

彼らは、病気平癒や災難除去などの現世利益をもたらすと信じられています。また、彼らの姿を描いた絵画や彫刻は、多くの寺院に安置されています。

In regard with the 18 Arhats drawn by Baisetsu, he replicated the 16 Arhats that Dogen brought back home to Japan from old China, they say.

Baisetsu's works are beautiful and seem to be added value with his inventive ideas.

Each arhat is having a spirit dwelling in and we gaze on it for the time being. Baisetsu's 18 Arhats had been produced in the end of Edo period based on Kosaiji temple's request in Kawagoe district.

じっかい
十界図 (Ten realms painting)



「十界図」は、仏画の一つで室町時代後期に、熊野比丘尼が曼荼羅と共に持ち歩き、全国津々浦々で熊野信仰布教のため、絵解きに用いた掛軸絵です。

「十界図」は「仏」を頂点に、右手に「菩薩」と「声聞」左手に「縁覚」の四界。縁覚界から左側に向かって「天上」「人間」「餓鬼」「地獄」「畜生」「修羅」の六道が描かれており、人間が業によって生死を繰り返す様子が描写されています。

東松山市曹源寺は寛永2年(1625)に開山され、御本尊の延命地蔵菩薩像は、平安時代の参議で昼は朝廷に出仕し夜は冥土の閻魔庁を往来した「小野 築」たかむら作といわれます。

Ten realms painting is one of Buddhist paintings. In the end of Muromachi period, 440 some years ago, a nun from Kumano district walked around to engage

in missionary work with this scroll painting as picture explanation with a mandala.

The picture holding by Eno house was donated to Sogenji temple in Higashi-Matsuyama.

釈迦涅槃図 (Shaka's Nirvana pictures)

楳雪は、「釈迦涅槃図」を四幅も描いています。涅槃図は「釈迦」が沙羅双樹の下で入寂し、弟子や衆生、鳥獸などが嘆く様子を天空から見て「摩耶夫人」が薬草入りの包みを投げ込みますが、「沙羅双樹」に引っかかったという説話が描かれています。

(注) 涅槃図の写真撮影は各寺院ご住職の許可のもとに行いました。



東松山市・曹源寺蔵



東松山市・福聚寺蔵



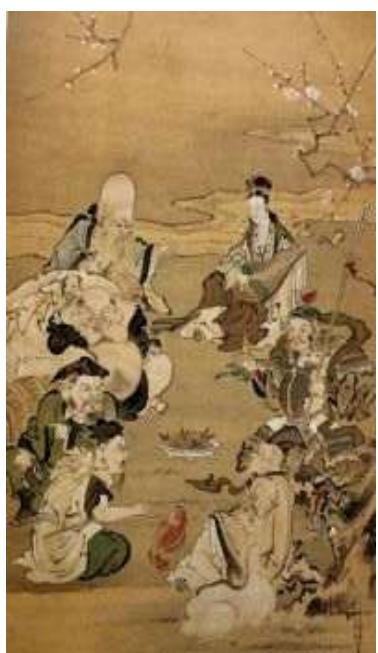
川越市・廣濟寺蔵



鴻巣市・法要寺蔵

Baisetsu painted four Shaka's Nirvana pictures. The pictures tell us Shaka reached the stage 'Nirvana' where earthly desires were totally gone away. All things including people, animals and plants feel sorrow. Shaka's mother, Maya looking down from heaven tossed a pouch enclosed medicine, but it was hooked on the Sal tree.

聖から俗へ (Sacred to Mundane life)



現代でも人々は「福」を求めています。江戸時代末期でも人々に「福」をもたらす七福神や文人の絵画および彫刻がもてはやされていました。

特に「七福神」は庶民の間でも大人気を博しました。

「恵比寿」は日本の神様。

「大黒天」「毘沙門天」「弁財天」はインドからの神様で、「布袋」「福禄寿」「寿老人」は中国からの神様です。

鍾馗の信仰 (Shoki worship)



鍾馗は、唐の時代の人物で「科挙(注)」に落ちたことが原因で自殺したと言われています。しかし、「鍾馗」は死後も鬼となって人々を苦しめる疫病神を退治し人々を救ったことから、神として祀られるようになりました。鍾馗は「道教」に由来する神で、疫病や悪霊を退散する神として、中国だけでなく日本や朝鮮半島などでも信仰されています。日本では端午の節句に鍾馗の絵や人形を飾る風習があります。(注)官僚登用試験(598年～1905年)

天孫降臨図 (Descent to earth of the grandson of the sun goddess)



天孫降臨とは、日本神話に記されている「天照大神」の孫である「瓊瓊杵尊」が、天照大神の命を受けて葦原中国(あしはらのなかつくに)に降臨した神話です。瓊瓊杵尊は、天照大神から授けられた三種の神器である「八咫鏡/草薙剣/八尺瓊勾玉」と五伴緒と呼ばれる神々を伴って降臨しました：

- ・アメノコヤネ(天岩戸で祝詞を奏上)
- ・フトダマ(天岩戸で鏡や勾玉をもって祭礼を挙行)
- ・アメノウズメ(天岩戸前で踊り大神を引き出した)
- ・イシコリドメ(八咫鏡を作成)
- ・タマオヤ(八尺瓊勾玉を作成)

五伴緒の神々は「オモイカネ(知恵の神様で天岩戸開きに活躍)」「タジカラオ(天岩戸から大神を引き出した)」「トヨウケ(大神の食事を司る御饌津神)」「アメノオシホミミ(瓊瓈杵尊の父)」「サルタヒコ(天孫降臨時に道案内した国つ神)」ともいわれます。

仙人高士 (Hermit High Priest)



仙人：道教の仙人とは、不老不死の術を身につけ山奥などに隠棲する修行者を指します。超自然的な力を持つとされ、神仙思想において重要な存在で「天仙」「地仙」「人仙」に分けられます。

高士：世俗の地位や名誉を求めず「清廉潔白高潔」な人物。学問や道徳に優れ、隠遁生活を送る人を指すことが多く、必ずしも仙人であるとは限りません。仙人のような超俗的な存在として扱われる場合もあるようです。

(備考) 仙人高士とは、仙人と高士を合わせた言葉です。

仰ぎ見る莊嚴・格天井画 (Solemn world : Compartment ceiling)



三十六歌仙 (36 great poets)



三十六歌仙とは、優れた歌聖として崇拜された三十六人の歌人の総称です。
藤原公任編の秀歌撰「三十六人撰」に選ばれた歌人で、柿本人麻呂、山部赤人、大伴家持らの万葉歌人。在原業平、小野小町、僧正遍昭、喜撰法師らの六歌仙。さらに紀友則、おしこう 凡河内躬恒、伊勢、紀貫之、壬生忠岑ら古今集時代の歌人を指します。

祭りの世界 (Festival in Kawagoe)

慶安元年(1648)に、当時の川越藩主・松平信綱が「氷川神社に神輿や獅子頭などを寄進した」ことが、「川越まつり」の始まりです。

その後、3年後の慶安4年(1651)に初めて「神輿行列」が町内を渡御します。このことが「川越まつり」のルーツとされています。模雪は1826年全長18mの長巻「川越氷川祭礼絵巻(注)」を描いて注目を集めました。(注)埼玉県指定文化財

Baisetsu painted the 18m long picture scroll in 1826 entitled 'Kawagoe Hikawa festival' and this picture scroll has been designated as the Saitama prefecture's asset.

Baisetsu's works have drawn many people's attention lately.



山水の世界 (Landscape pictures)



走獣絵画 (天井図・羽目板) (Beasts Paintings on ceilings and paneling)



(備考)江野模雪が描いた「天井図・羽目板絵画」作品の一部です。

俳諧師の肖像画 (Great Haiku Poets Portrait) および主たる掛軸 (Hanging scroll)



松尾芭蕉ほか俳諧師 (注)



旭日に飛鶴図



高砂図



寿老人図(リンデン博物館)

(注)「俳諧の祖・荒木田守武」「談林派・西山宗因」「江戸前期の女流俳人・斯波園女」
「江戸前期の俳人・松永貞徳」「俳諧の祖・山崎宗鑑」を描いた肖像画です。

石原のささら獅子舞図 (Diving beast dancing)



川越市石原町の観音寺を中心に、慶長 12 年 (1607) に始まったと伝えられる獅子舞 (県指定無形民俗文化財)。

寛永 11 年 (1634) 川越城主酒井忠勝が越前小浜へ国替の折、獅子頭を持参したため一時中断されます。

しかし、宝永 6 年 (1709) に再興され現在に至っています。

この絵画は、石原町と高沢町を流れる赤間川 (現新河岸川) に架けられた高沢橋

を渡り、左に六塚稻荷神社を見、高沢町に入る木戸前にて一庭舞っている様子を描いています。遠くに川越城 (右上) が描かれています。

えのばいせい 江野梅青の絵画 (Paintings by Baisei)

江野楳雪は、兄の次男(嘉兵衛)を養子とし「梅青」と名乗らせました。

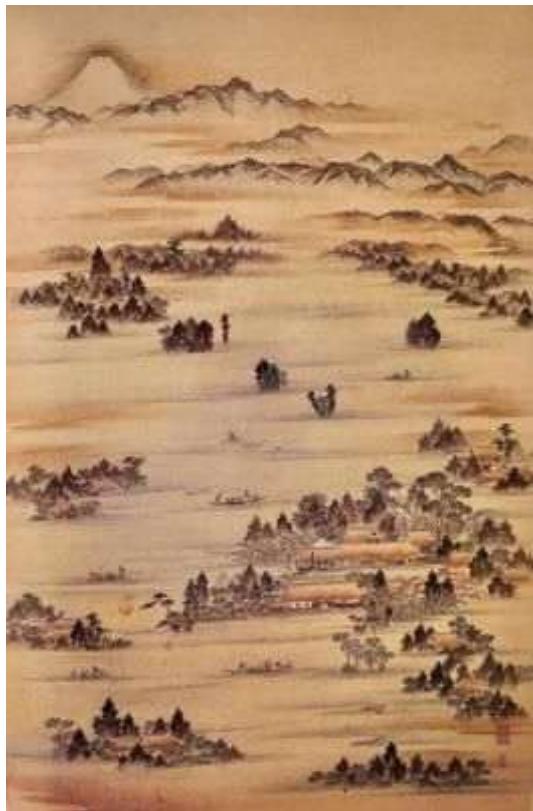
Baisetsu had no boy so that he adopted his nephew and named as Baisei.

Baisei succeeded Baisetsu's painting business



YouTube

時事画:越辺川通入間郡赤尾村出水之図 (Heavy rain caused Oppe River to overflow)



越辺川通入間郡赤尾村出水の図は、当時起きた洪水被害の歴史を後世に残された貴重な時事画です。「越辺川氾濫」による洪水は近隣の地に多大な被害をもたらしました。

特に安政六年(1859)の大洪水は家屋敷や田畠が浸水したことから、赤尾村の「林家」の依頼により、梅青が俯瞰図として描いた貴重な作品です。

高台の家屋敷だけは水没を逃れ、被災した人々が家財を乗せた船で救助を求めている様子が克明に描かれています。

The painting of the Oppe River flooding in Akao village, Iruma is a valuable work and represents the history of the time for future generations.

The floods caused by the Oppe River's overflow brought significant damage to the neighbors. By the great flood occurred in 1859, houses, estates, and farmlands were ruined. Baisei commissioned by Hayashi family of Akao Village and painted this precious work as a bird's-eye view. It vividly portrays the scene, showing only the elevated house and land escaping submerge, while the affected residents are seen on boats loaded with household goods and asking for help.

走獣絵画 (天井図・扇絵) (Beast paintings on ceilings and double door)





梅青は、「楳雪の力量」を継承しています。若干33歳の若さで他界しましたが、大胆かつ精緻で柔らかい筆使いの作品を数多く残しています。福の神や「恵比寿・大黒」の表情から、梅青の温厚な性格が読み取れます。



Baisei took after Baisetsu's ability. He passed away at the age of 33, but he left many works with using fine and skillful brushwork. We touch his calm personality through the god of fortune's facial expression.

楳雪の画帳 (Baisetsu's Picture Album)



備考：寺社撮影以外の掲載写真：「江野楳雪・梅青一丹青なる画の世界」より転載

参考文献：

- ① 神社序比企郡市支部比企郡市崇神会『比企郡神社誌』(1960) 神社序比企郡支部
- ② 箭弓稻荷神社『御鎮座千三百年記念誌』(2000) (株)アサヒコミュニケーションズ
- ③ 寺島良安『和漢三才図絵』龍蛇部 45巻(1884翻刻)中近堂版
- ④ 江野祐一郎・千枝子『江野楳雪・梅青一丹青なる画の世界』(2007) (株)東京美術
- ⑤ 江野祐一郎・千枝子『先祖代々の物語』(2024) まつやま書房
- ⑥ <http://higashimatsuyama-kanko.jimdofree.com>